

学校評価結果公表シート（令和6年度）

梅村幼稚園

1、本園の教育目標

幼児期を人間性豊かな人格の基礎作りの時期と捉え、保育者のねがいを教育目標として、次のように明示している。

望まれる子どもの姿：「げんきに・意欲的に・お互いに」

- ・ 生き生きと元気に活動できる子ども
- ・ 意欲的に活動する子ども
- ・ 相互に共感できる子ども

教育目標

- (1) 健全な心身の基礎を培う
- (2) 自然や人々に積極的に関わろうとする力を培う
- (3) 話すこと、聞くことに興味が広がる
- (4) 様々な体験を通じて豊かな感性が育つ
- (5) 人への愛情と信頼感が育つ

2、本年度、重点的に取り組む目標・計画

今年度は、子ども達の運動意欲を持たせ、伸び伸びと遊び、楽しみながら運動することによって、運動能力の向上を目指す。また、年齢別の基本運動の段階を考えながら、専門の先生達とも計画をし、保育にもつなげ、こどもの好奇心や興味、運動経験を踏まえて、徐々に取り組んでいく。

3、評価項目の達成及び取組状況

評 価 項 目	取 組 状 況
<ul style="list-style-type: none">・ 園全体や先生達の目標を柱に、運動意欲を持てるような計画をたて、個人の運動能力や体力を伸ばせるように、一人ひとりに合ったかわり方も考える。・ 運動遊びの日だけでなく、一日の中で、伸び伸び体を動かし、体を使って遊べるような保育内容を考える。・ 遊びを通して、身体を動かすことは楽しいという気持ちを育てたり、体力作りにつなげたりするようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ 園全体や先生達の個々の目標の振り返りをしたり、昨年度の担任と個々の振り返りをしたりして、学年でも、月々の見直しをしたり、計画を更に細かくたてたりした。・ 一日の生活の中で、体を伸び伸びと遊べる時間を作った。子ども達が雨天や暑い日でも、広い場所で体を思いきり動かせるように、なかよしほーるや遊戯室、園舎の前の広場などを利用出来るようにした。各クラスで話し合い、使用する場所や一日の流れ、時間配分や内容を考え、各クラスや学年、異年齢など、様々な園児と関わった。

<ul style="list-style-type: none"> ・サッカーゴールやドッチボールのコート、ボール、かけっこがしやすいスペース、縄跳びや長縄など、したい時に出来るように子ども達が遊びから運動に繋げていやすいような環境作りをする。 ・週1回の運動遊びでは、内容を考えたり、工夫したりする。 ・クラスだけでなく、学年や全園児でも、運動する時間を作り、楽しい雰囲気作りにも心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・好きな遊びを伸び伸びと夢中になって楽しみ、みんなが体を動かす時間を作ったり、集団遊びをしたりして、個々のペースではなく友だちに合わせたり、力を合わせたりと、様々な活動を、繰り返し集中して取り組むことで、体力作りにもつなげられるように心掛けた。 ・週1回の運動遊びの日には、子ども達の発達に合わせて内容を考え、一年を見通して、毎月計画をたて、工夫したりした。専門の先生とも目標を持ち、振り返りをし、指導をしていただいた事は、普段の保育にもつなげられるようにしたりした。 ・全園児で体操をしたり、運動会ごっこをしたりして、楽しんだ。 ・縄跳びや、鉄棒、雲梯、マラソン、跳び箱、マットなど、目標を持って続けて練習する事で、達成感や満足感を味わえるようにした。
--	--

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度は子ども達の運動能力と体力が全国的に低下しているということから、運動能力の向上を願って目標に掲げた。園では、週1回の運動遊びや、月1回の専門の先生による運動遊びを通して、様々な運動の機会を作り、様々な経験をしたり、運動の楽しさや面白さを伝えたりし、運動能力を伸ばすようにした。子ども達の日頃の様子や成長過程を把握しながら、担任や専門の先生と年齢に応じた遊びや運動を取り入れ、内容や計画を考え、各クラスでは学期毎に目標を持ち、専門の先生とは月々のねらいと主体となる運動計画をたて楽しみながら行うようにした。

友だちや保育者と一緒に体を動かすことを楽しむねらいから、学年に応じた楽しみ方を工夫し、体操やダンスなど、音楽を使ったりリズム遊びなどで体を動かしたり、フープを並べて両足跳び遊びから感覚を掴み、縄跳びにつなげていき、縄で遊んだり縄で部屋を作りジャンプをしながら出入りをしたりして、リズムを感じ、跳ぶイメージを持てるようにした。だんだんと続けて跳べるように繰り返して練習したり、跳び方を変えて縄跳びにはいろいろな跳び方があることを知ったり、ゲームをしたりして、発展すると長縄跳びにも興味を持ち、友だちと声を掛け合いながら楽しむようになった。また、鉄棒を使って、腕や上半身の力を付けるように、ぶら下がったり体を揺らしたりして、自分の力で支えることを感じたりし、前回りや逆上がりにも取り組んだ。跳び箱では、両足跳びを意識する飛び降りや、山登り、開脚跳びなどと学年や段階に応じて、3段・4段・5段・6段…と取り組んだ。様々な運動を経験し、チャレンジをすることもねらいとし、かけっこ、変化走、ゴム跳び、平均台やマット、跳び箱、ボール、鉄棒、雲梯、ボール運動、プールなど、「だんだん出来るようになってきた」「ちょっとできた」と練習過程の楽しさを味わい、個々の力を出したりしながら、頑張る力を育て、やる気や自信をつけた。また、組作り競争やドッチボール、サッカー、転がしドッチ、リレーなど、集団競技やでルールのある運動にも取り組んだりし、運動の楽しさを再確認し、仲間と力を合わせることの大切さも学んだりした。時には、異年齢でも一緒に活動や遊びをする機会を持ち、運動遊びや運動会ごっこをする中で、真似をしたり、お互いに刺激し合ったりする姿も見られたりした。

運動遊び以外でも、日頃の遊びや生活も身体づくりにとてもかかわっていると思い、大切にしたい。一日の中で、体を伸び伸び動かすことは楽しいと感じて遊べるよう、時間配分や内容などを工夫するように心掛け、暑い時や雨天の時は屋根のある玄関前や広いホールなどで遊んだりした。

子ども達は戸外遊びを楽しみにしており、夢中になって園庭を走り回ったり、片足で漕ぐスケーターや自転車でバランスをとったり、フープの組み立てを考え、並べてケンケンパーや跳ぶリズムを変えておもしろがったり、個々の縄跳びや長縄は「1、2、3～」と数え合ったり、何度も繰り返し練習して「跳べたよ」と喜び合ったり、砂場で「腕つかれたー」というくらい大きな山や穴を掘って町作りをしていたり、みんなで声を掛け合い集まって、長縄やサッカー、おにごっこ、ハンター遊び、ドッチボール、リレーなども友達や保育者と遊んだりした。雲梯ではぶら下がっては降り…を繰り返していると、日に日に体を支える力もついてきて、保育者も援助したり、自分のペースとタイミングで練習したりしてゴールを目指して渡ったり、「運動遊びの時、出来そうやったからもっとしたい」と戸外遊びになると鉄棒までとんで行き、運動遊びの続きから前回りや逆上がりを練習する姿も見られたりした。園庭にある芝滑りの丘では、急な傾斜をじっと見る姿から、怖がったり登ることが難しそうな子も、手をついて登り始め、少しずつ足を使って…と自分なりにどうしたら登れるかを考えてチャレンジしたり、友達やお兄さんやお姉さん、先生達に手伝ってもらったりして、いつの間にか登れるようになり「見て、登れたよ」と嬉しそうな達成感いっぱいの姿や、お互いに声を掛け合ったり支え合ったりする姿も見られた。また、クローバーやカラスノエンドウなどを集めたり、たくさんの虫を探して「バッタ、速い」「こおろぎつかまえた」「とんぼ待ってー」などと傾斜を夢中になって追いかけたりするかける姿も見られ、芝滑りの丘では、遊びの中で自然の変化を感じながらバランスをとったり、考えたり、体全体の力を使ったり、自然に体幹が鍛えられていると感じている。子どもの運動は、遊びから発展していくものであることを改めて思い、子ども自身が楽しく、進んで行うことが出来るように環境設定を工夫し、運動遊びや様々な遊びから、集中力や挑戦する気持ち・意欲・持続力が育まれ、達成感や満足感が得られることで、個々の自信や運動能力の向上へとつながっていると思う。これからも、身体を思いっきり動かして遊び、運動や身体を動かす事は、おもしろい、楽しいと思える保育内容や環境設定、かかわりなどを大切にしていきたいと思う。

5、今後取り組むべき課題

様々な表現活動を楽しみながら、表現する楽しさや喜びを感じたり、様々な表現力を養ったりする。子どもの安全確保の為、日常及び緊急時に対応できるように危機管理マニュアルの改善をする。

6、学校関係者の評価

今年度も、このような情勢の中、普段の生活や行事など様々な工夫をしていただきました。

評価項目に従って対応されていると思います。今後も、引き続き課題を見つけて、頑張ってください。